平成24年度　島田療育センター　公開シンポジウム

ささえあおう　生活によりそう 福祉・医療をめざして

「支援する側･される側」という垣根を外し 互いに「ささえあう」という視点に立って、より相手を理解し相互の力を引き出していく機会となるような福祉･医療のあり方を考える。

◎主催： 島田療育センター
◎後援： 多摩市
◎後援・助成： 読売光と愛の事業団
◎実施日時： 2013年2月11日（月･祝）
13：00～16：30
◎会場： 島田療育センター（多摩）厚生棟
◎対象： 地域住民や関係機関など
◎参加定員： 100名（申し込み先着順）
◎参加費用： 1000円
◎お申し込み方法◎
お名前、ご所属、参加人数をご記入の上、下記FAX、メールまたはホームページの専用フォームよりお申し込みください。
（ホームページより申込書のダウンロードができます。）
FAX 042-374-2089
E-mail info-room@shimada-ryoiku.or.jp
ＵＲＬ http://www.shimada-ryoiku.or.jp

シンポジウム 内容

基調講演　熊谷 晋一郎 氏
（東京大学先端科学研究センター特任講師、脳性麻痺当事者）

略歴
東京大学先端科学技術研究センター特任講師、小児科医。日本発達神経科学学会理事。 専門は小児科学、当事者研究。 新生児仮死の後遺症で、脳性マヒに。以後車いす生活となる。 東京大学医学部卒業後、千葉西病院小児科、埼玉医科大学小児心臓科での勤務、 東京大学大学院医学系研究科博士課程での研究生活を経て、現職。

著書
『発達障害者当事者研究』（医学書院・共著）、『リハビリの夜』（医学書院）、『つながりの作法』（ＮＨＫ出版・共著）

話題提供
紫藤 勇市 氏（社会福祉法人啓光福祉会 啓光学園 総合支援部長 ）
村上 健一 氏（NPO法人ひまつぶしdeすぷ～ん 理事、先天性多発性関節拘縮症当事者）
大橋 小弓 氏（東京都立多摩桜の丘学園、特別支援コーディネーター、主幹教諭）
小野寺 早苗・杉沢 英浩（島田療育センター 理学療法士）

お問い合わせ　島田療育センター　支援部地域連携情報室
TEL 042-374-2101（電話受付 平日9時～17時）

島田療育センター 後援会

昨年12月1日(土)に、H25年3月で閉会となる島田療育センター後援会主催のバザーが開催されました。当日は沢山の方々が来訪され、掘り出し物が目白押しの会場内は勿論のこと、模擬店やプロ紙芝居師による紙芝居口演会など大いに盛り上がり、島田療育センター後援会の歴史や活動の集大成となりました。

地域療育等支援事業のご案内

①外来療育等支援事業（療育相談）
運動面やことばの発達、集団生活にうまくなじめないなどのご相談に応じます。

②施設支援一般指導事業
発達のご心配や障害のある方を受け入れておられる地域施設、機関職員の方を対象にご相談に応じます。

③訪問療育等支援事業
地域施設や家庭へ赴いて健康診査や介護指導などを行います。

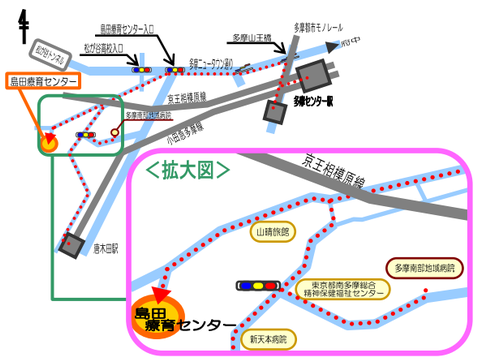
窓口は『地域連携情報室』
TEL042-374-2101（直）
費用は 無料です。

つどいの場「ひだまり」　時間変更のお知らせ

昨年12月よりスケジュールが変わりました。新しい時間は
10～12時 と 13～15時
場所は **島田療育センター**(多摩) **3階研修室**です。

今後の予定は、1月30日(水) 2月28日(木)、3月12日(火)です。

『ひだまり』は発達に心配のあるお子さんの保護者の方々とのおしゃべり・息抜き・情報収集の場です。スタッフと地域の親の会の先輩ママが常駐しています。是非お気軽にお越しください。



〈徒歩〉
多摩センター駅下車
→約20分

〈バス〉
多摩センター駅
バスターミナル12番乗り場
「南部地域病院」行き
→約7分
終点「南部地域病院」
下車→徒歩5分

編集後記

この季節、静電気のパチパチが気になりますね。気温の低下や空気の乾燥、重ね着した衣類の摩擦によって静電気が発生しやすくなります。湿度20%以下、温度20℃以下になるとそれが著しく、真冬の乾燥注意報が出た時には特に注意が必要です。静電気対策として観葉植物を部屋に置いたり(マイナスイオン効果☆精神的にもリラックス♪)、加湿器の利用(最適湿度は50%程度)、洗濯に柔軟剤を使用したりすることで、いくらか静電気を抑えられるそうです。(市川)

編　集　：　社会福祉法人 日本心身障害児協会
島田療育センター 支援部 地域連携情報室
住　所　：　〒206-0036 東京都多摩市中沢1-31-1
電　話　：　042-374-2071（代表）
E-mail　：　Info-room@shimada-ryoiku.or.jp
ＵＲＬ　：　http://www.shimada-ryoiku.or.jp

NEW ネットワーク しまだ
Network Shimada
発行者　島田療育センター
院長　木実谷 哲史

平成24年度 OT科主催イベント

OT講習会 ～うちの子って不器用かも？～ シリーズ(全3回)

島田療育センターの作業療法(OT)科では、一昨年度より、親御さんや帰属集団(幼稚園や保育園、療育施設)でお子さんと関わる方たちを対象とした講習会を開催しています。

今年度は3回シリーズで企画し、すでに7月28日、10月29日に2回目までを終え平成25年2月9日に3回目を予定しています。

OT講習会では、お子さんに指導や訓練を行うための知識を身に着けるための勉強会、というよりは、目に見えない感覚や体のバランス等に偏りがある状態がどんな風なのか、その状態で日常生活を過ごすことにどれだけの頑張りが必要となっているのかという、お子さんの視点に立って日ごろの様子を考えてもらえるような内容にしています。日ごろ感じている困りごとの原因を技術的な面からだけではなく、感覚－運動面や認知面からクローズアップし、感覚の偏りによる不器用さの状態や姿勢保持の難しさ等を『体験』して戴く時間を講義の間に設け、話で聞くだけではなく、ご自分の体で感じ取って戴くことで、お子さんの状態をより理解して戴けるようにしています。ご参加戴いた方々からはこの体験がとても好評で、『講義で聞くだけより分かりやすかった』『子供が置かれている状況を体験して大変さが分かり、今後の関わり方を考えていくきっかけになった』などの感想を戴いています。

今年度はすでに2回目までを終え、2月に3回目の『集団生活での困りごと～みんなを困らせちゃってるけれど、僕たちも困ってます～』を予定しています。集団生活で『困ったな』と思うことがあるお子さんの親御さんだけではなく、作業療法に興味のある方などもぜひご参加ください。

夏休み特別企画 ～宿題お助け！工作の会～ シリーズ(全2回)

今年度の発達支援センターのOT事業として、初めて夏休みイベントを開催しました。

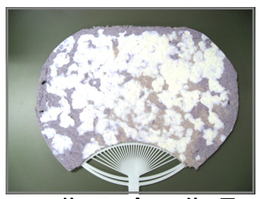
長い夏休みをどう過ごすか、さらに山のような宿題をどうこなすのか、という小学生の皆さん(とその親御さん)の悩みをちょっとでもお助けできればという思いから、『宿題お助け～工作の会～』という企画にしました。

1回目は7月末の平日、夏休みの早い時期にOT訓練室を会場に『万華鏡作り』、2回目は8月の半ば、お盆前にほっとステーションのA室をお借りして『紙漉きうちわ作り』を行いました。2回とも参加して下さったお子さんは3人ずつと、少なめでしたが、小グループ活動の雰囲気でそれぞれのペースに合わせて行うことができました。万華鏡は作り方は簡単ですが出来栄えはなかなかのもので、クオリティーの高さは親御さんも驚くほどでした。紙漉きうちわは牛乳パックを使って、更に自分の作ったうちわで自然の風で暑さを凌ごう、といった『エコ』なお話もしながら作りました。

今年参加して戴いた皆さんにはとても好評で、来年も是非やって欲しいという感想を戴きました。夏休みの宿題や思いで作りのお手伝いが出来て、スタッフも楽しく行うことができました。来年はもっとたくさんのお子さんに参加して戴けるような企画を考えていきたいと思っています。

（作業療法士　福島　史）

OT 講 習 会 の 様 子


工 作 の 会　作 品

発達支援センター心理相談室 第８回講演会

『心の育ちを考える ―大人がもつべき視点とは―』

齊藤万比古先生

心理相談室では、地域の皆さんと発達障害に関する理解を深めていくことを目的に、年一回講演会を実施しています。今年度は、『心の育ちを考える―大人がもつべき視点とは―』と題して、国立国際医療研究センター国府台病院の齊藤万比古（さいとうかずひこ）先生に、発達障害や発達が気になるお子さんの心の発達についてご講演いただきました。行事などで忙しい時期にも関わらず、保護者や学童の先生などたくさんの方にお越しいただきました。

講演の前半では、“ADHD”や“PDD”などの医学的な用語や発達障害のお子さんの特性について、先生が実際に診察でお会いした方々とのエピソードなどを交えながら、具体的にご説明いただきました。また、ADHDのお子さんでは、大人の叱責や失敗体験の積み重ねで自信を失くしがちであったり、周囲の人に対して反抗的になりやすくなったりする傾向があること、一方PDDのお子さんには、“心の理論を獲得する”という発達の次のステップへと進んだ時、自分に向けられた他者のネガティブな感情に気付くことで、傷ついたり過度なストレスを感じたりすることがあること等、お子さんのもつ傾向や特性によって生じやすい心の問題について、わかりやすくお話ししていただきました。そうした心の問題について、周囲の大人や友人との良好な人間関係といった環境との相互作用が心の健やかな発達に不可欠であるとのお話に、参加者された多くの方が深く頷いていらっしゃいました。

後半には、事前に参加者の皆様から寄せられたいくつかのご質問について、先生に答えていただきました。保護者の方の具体的なお悩みにも、親身にアドバイスしてくださいました。

終了後のアンケートには、『勇気づけられた』『これからの子育て・支援に希望がもてた』といった感想をいただきました。心理相談室では、今後もこのような有意義な機会をつくっていきたいと思います。

（心理判定員　増冨　真耶 ）

心理相談室 講演会の様子

新　第10号（2013年1月15日 発行）

PT科主催　保護者交流会

～ 後まわしな自分に…手と心に潤いを… ～

11月15日、午前中2時間を使って今年2回目となる、障害をおもちのお子さんを育てる保護者様を対象とした「保護者交流会『かるがも』」を実施致しました。

毎回テーマをもち開催しておりますが、今回はネイリストの先生をお招きし「これからの季節をふまえて」ということで『ハンドマッサージとネイルケア』というテーマで実施致しました。前半は爪のお話等ご講義いただき、後半は実際に保護者様同士でハンドマッサージを実践していただく2部制で行いました。前半の講義では小さなお子さんにも手、爪のケアは必要であること、爪の切り方一つにしても注意を向けることでその後の状態が変わっていくこと等、普段なかなか爪について知る機会がない私も「なるほど！」と聞き入ってしまう内容でした。保護者様も皆さん真剣に聞かれていました。

講義の後、実際のハンドマッサージに移りました。保護者様はお互いに向かい合い、プリントにあるマッサージを一つ一つ丁寧に、相手の保護者様に聞きながら実施されていました。講義の時とは一変し、大変和やかで楽しそうな雰囲気に保護者様もリラックスされた様子で、講師の先生への質問も色々出てくるようになりました。

その先生とのやりとりの中で印象的だったのは、先生は現在4人のお子様の子育て中ですが、子育てを始めてから現在のお仕事に就かれたというお話から、ある保護者様が「私も何か始めてみようかな」と話し出したことでした。そこからまた会話が弾み、毎日慌しく子育てしている中で、自分から何かを始めてみようという気持ちが芽生えることは素晴らしいことだと思いました。マッサージの時間はまだまだという雰囲気ではありましたが、最後に恒例の自己紹介と感想タイムに移り、和やかな雰囲気はずっと続いていました。

この時期に欠かせないハンドケア、今回の「かるがも」がご家庭にも反映されることを願います。

（理学療法士　小野寺　早苗 ）

講師の先生のハンドマッサージの様子

連載「行動はメッセージ ～ 気づいてよ、僕たちの気持ち ～」

その１　ほめることはなぜ大切なのか

今回はシリーズ（連載）でお届けします

子どもたちは日々の成長の中、様々な経験を通して色々な行動を獲得していきます。子どもが獲得する行動の中には、きっとたくさんの望ましい行動があることでしょう。ですが、中には周囲から見て少々困った行動や、かなり深刻な問題となる行動もあるかもしれません。この発達相談Q＆Aでは、そのような子どもの困った行動を取り上げ、具体的な支援の仕方について「応用行動分析」という考え方に基づいたお話しをしてきました。

この「応用行動分析」とは、簡単に言うと、「行動は学習によって獲得されるもの」であるという考え方です。人の行動は、「きっかけ→行動→結果」という3つの連続した項から成り立っています。これを3つの頭文字をとって一般的にABC分析と呼んでいます。人の行動が起きるためには、必ず何かしらのきっかけが存在し、行動の後には必ずその行動を強めている結果が伴っているのです。これに照らしわせると、子どもがある「行動」をしたときに、「行動」の後に随伴される「結果」が子どもにとって良いものであれば、その行動は強化されて増えていきます。反対に、「結果」が子どもにとって嫌なものであれば、その行動は減少していくことになります。↗

例えば、子どもがお手伝いをしてくれた時、お母さんがお菓子をあげたとします。お手伝いをすればまたお菓子がもらえると子どもが考えれば、自ら積極的にお手伝いをしてお菓子をもらおうとすることでしょう。これは、「お菓子（結果）」が「お手伝いすること（行動）」を増やしていることになります。逆に、子どもがお手伝いをしてくれた時、お母さんがきちんとお手伝いをしなかったと言って、子どもを叱ったとします。そうすると、子どもは叱られるくらいならもうお手伝いはしないと考えるはずです。これは、「叱られること（結果）」が「お手伝いすること（行動）」を減少させたことになります。

私たちは機会があるごとに、保護者の方や支援者の方々に対して子どもの正しい行動を積極的にほめるようお話ししています。子どもの正しい行動に対して良い結果を与える、これが、子どもを支援する上でもっとも大切なことなのです。

次回は、ABC分析では子どもの示す困った行動をどうとらえ、どう支援していけばよいのか、お話ししたいと思います。

（心理判定員　山本　秀二）